

忍者とは

忍者には二種類がありました：闇に紛れて戦闘や潜入を行う「隠忍」と、僧侶や商人、大道芸人などに変装してターゲットと交わり、情報を収集する「陽忍」がいました。陽忍は、長期にわたってその地域に滞在し、地域住民と親しくなりながら目的を達成しました。彼らは、肉体的持久力、精神的敏捷性、戦略的思考を必要とする、さまざまなステルス戦術やサバイバル戦術を駆使しました。

甲賀地域は当時としては珍しく、他の多くの地域とは異なり、地元大名の権力が弱かったのが特徴です。その代わりに、地元の共同体が血縁や地縁に基づいてグループを組織し、自律的な統治と集団的な自衛を実践することで安定を維持し、支配的な権力の台頭を防いでいました。甲賀流忍者は、俸禄と引き換えにその専門知識を駆使して敵の動きを調査し、弱点を見極め、奇襲を仕掛けたり、戦略的な助言を与えました。彼らの功績は非常に重要で、その活動がしばしば戦いの結果や主君の運命を左右することがありました。

甲賀忍者の役割は時代とともに進化しました。広範な武力紛争があった戦国時代（1467年～1568年）には、主に戦闘、情報収集、戦略立案に従事していました。比較的平和な江戸時代（1603年～1867年）には、一部の甲賀忍者が中央や地方の政府で職を得て、護衛や警護、沿岸防衛の見張り役などを務めました。

甲賀市を訪れる際は、忍者の世界を発見し、忍者の技術、道具、彼らが歴史に果たした

役割についてを学んでください。